

ネイチャーセンター ガイド (111)

携帯電話と状況判断

新年度が始まってはや1カ月、お正月まであと7カ月あまり。時が過ぎるのは早いものですね。皆さんは毎日の時間の使い方、利用の仕方はどうしていますか？今は、入学、入社の季節で不安と期待が入り混じり、何かと落ち着いた時期かもしれませんが、心の具合はいかがでしょう？

新しい人たちとの出会い、そこで生まれる刺激・衝突・和解・不満などの様々な思いは、これからの自分にとってマイナスなことなどひとつもない大切な季節です。

人との出会いは新しい自分と出会えるチャンスが沢山あると私は勝手に思い込んでいます。「迷ったら動け」知らない世界の不安を解消するには、思いっきり飛び込み、その時自分はどうか動くのか？どう動けるのか？試してみるんです。失敗したっていいじゃない、取り返せばいいんだから……。その場で不安を怖がりつつも楽しむことができれば、いいんじゃないかな。不安が勝てば自分をうまく表現できないし、できなくっても次があるじゃない、元気出せ。次が駄目でも、又次があるじゃない、2回目の失敗以降はよく考えて動け、元気を出せ。こうやって訓練していくんですよ。

できないのには理由がある。今一番できない理由は「教えられていない」ってことかな？このくらいはできるだろうと「思い込んで」しまうと、先へは進まず成長はない。なぜできないのか？理由を探り、聞く、心の余裕が指導者には必要だ。そして親にも。当たり前前が当たり前前にできない。当たり前前という概念や尺度がどこまでなのか？違いすぎる。社会のルールでなく、個人のルールで動く社会。自己を満足させるためだけの権利の主張は、何の意味も持たず、こ



の権利だけを主張する側は結局自分では動けない。なぜなら不安でいっぱいだから、だから群れる、そして終始誰かに責任を押し付けながら、誰かに依存しながら生きている。自らの生きる基礎を築けずじまい。探って築くことを教えられずに生きてきた背景が見えてくる。

教わる時には、きちんと教わるのが大切だ。「学校は何もしてくれない」こんな発言を耳にしますが、このれも「依存」しているひとつ。学校はという前に自分が子どもに何かしてあげているか。それは物を与えるだけのことでなく、子どもの話を聞いているか、十分に甘えさせてあげているか、ご飯と一緒に食べているか、挨拶はできているか、暮らしを共に楽しんでいるかなどなど。してあげるばかりだけではなく、子どもの人生と未来をサポートしてあげているか？誰かに依存せず、自分の意思で、そして子どもの意見を尊重できているか？心に余裕ができた時、親たちも自分自身に聞いてみる必要がある。親が気付いて直せば、子どもは変わる。親が変われば社会が変わる。子どもたちの未来を描いたことはあるか？大人たちよ、気合いを入れろ。

先日、子どもたちのお迎えを見かける場面があった。お母さんは携帯電話をかけっぱなし。指導員の話しも、子どもの様子も聞かず。そりゃ、指導員も話せないわな、子どもを引き渡すのに電話をされていれば……。

待っている間も携帯電話。子どもを引き取り車に行くにも携帯電話で通話中。何が……起きている？

緊急電話の様子もなく、とりとめのない話の表情に思えた。子どもを迎え入れること、不安の中で過ごした時間から開放される親との再会は携帯電話で壊される。壊されると思い込んでいるのは私だけ？状況判断をできる大人を育てたい、そう強く思えた瞬間でした。



連絡・問合せ先 ☎(45) 6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝日の翌日